

第13回ライブラリーカフェ

2019年7月8日 17:10-18:10

今回は共通教育学群の瀧ヶ崎 隆司 先生をお迎えし、「心理学実験? -はじめての心理学-」と題してオープンスペースにて開催されました。参加者は、2人1組で実際に心理学の実験を行い、大いに盛り上がりました。また、実際に実験を体験することで、瀧ヶ崎先生のお話への理解も、より深まったのではないのでしょうか。



2人1組で実験!

瀧ヶ崎先生の解説

選書ツアーに行ってきました。

2019年9月18日 紀伊國屋書店新宿本店

書店で本を手に取り内容を確認しながら、LCセンターに置いてほしい図書を選ぶ「選書ツアー」を開催しました。今回は参加者3名が30冊を選書しました。

参加者が選んだバラエティに富んだ図書は、10月28日からの特集展示「先生と先輩がすすめる本」で貸出します。ぜひ、借りに来て下さいね。



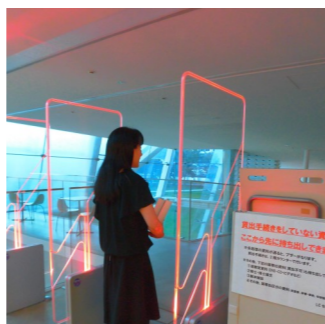
本を選ぶ参加者

BDS（貸出手続き確認装置）が新しくなりました。

9/10~9/11に新しいBDSの工事を実施しました。BDSとは「Book Detection System」の略で、貸出手続きを確認する装置のこと。工事期間中は、図書の貸出・閲覧を停止し、一部施設を封鎖しました。ご協力ありがとうございました。

新しいBDSは透明で、すっきりとしたデザイン。貸出せず本を図書館から持ち出そうとすると、警報音とともに赤く光ります。また、3階出入口からの図書持出し時には、事務室に通知が入ります。職員による確認にご協力をお願いします。

LCセンターは複合施設です。図書館、学習コーナー、ゼミ室、オープンスペースで構成されています。LCセンター内の図書館以外の施設で本を利用する場合も、必ず貸出が必要です。BDSが赤く光り、音が鳴ったら、2階カウンターにお越しください。



貸出手続きをお忘れなく……。



青塔秋号を発行しました。

秋号は、大学生活や研究テーマを中心に、主に新任の先生方にご寄稿いただきました。LCセンター内で配布しています。ご自由にお持ちください。

リポジトリでも公開中です。

LCセンター2階特集展示

9/20(金)~10/26(土)「読書の秋…お宝発掘大作戦…」
図書を包装して展示。どんな本を借りたのか、開いてのお楽しみ。

10/28(月)~11/30(土)「先生と先輩がすすめる本」
250文字ブックレビューの紹介図書と選書ツアーの図書を展示。

開館カレンダー

10月 October							11月 November							12月 December							2020年 1月 January						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30	31	

通常開館日	9:00-20:30	休館日	日曜・祝祭日・本学休業日	短縮開館日	9:00-17:00	学外者	13:00-17:00
-------	------------	-----	--------------	-------	------------	-----	-------------

息抜きの散歩道 Vol.12

編集・発行/日本工業大学LCセンター 〒345-8501埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 <http://lib.nit.ac.jp>

蔵書点検のおしごと。

毎年、8月末から9月初旬にかけて、「蔵書点検」、つまり図書の棚卸しを行っています。この期間中は、図書館を閉鎖して図書の利用もできなくなります。では、封鎖された館内では、何が起きているのでしょうか。

1, 準備

> 告知

館内掲示、ホームページなど様々な方法で蔵書点検の周知します。

> 機器の点検



LCセンターには蔵書点検端末が5台あります。各端末が問題なく動くかを確認します。

> 書架整理

図書が規則通りに並んでいるか確認し、配架し直します。

> 棚番号の貼り付け

読取作業用に各書架に番号を振りまします。

> 図書館の入口封鎖

LCセンターは複合施設です。期間中は図書館部分を閉鎖します。

2, 図書のデータの読込 (8月最終週)

今年の対象図書は、約20万冊。全冊のICタグを5台の端末で3日間かけ



て読込みます（体力勝負です。筋肉痛になるかも）。読込状況は棚番号で共有します。

> マッチング (4日目)

ICタグの読込データは英数字の羅列のため、このままでは図書のデータに変換できません。4日目には、ICタグのデータを図書データに変換します。

> エラーリストの作成 (5日目)

マッチングの結果を元に、「所蔵不明図書」「貸出中なのに配架中の図書」「配架場所が違う図書」などのリストを作成します。

3, 図書の検索とデータ修正 (9月第1週)

エラーリストを元に図書の検索をします。発見時に異常があれば、正確なデータに修正して、正しい場所に配架します。

特に「所在不明図書」は人を交代して3回探します。それでも見つから

ない図書を「不明図書」として確定します。2年連続で不明の図書は、除籍手続きをします。

4, 館内整理

利用者さんがいないこの時期に、大規模な図書移動や図書データの修正などを行います。また、利用者みなさんが利用しやすいよう、図書の配架を整えます。

蔵書点検中に本の貸出・閲覧ができない理由

蔵書点検中に貸出や閲覧のために図書を利用すると、ICタグの読取りが不正確になったり、図書の検索に支障が出たりします。このため、蔵書点検期間中は、貸出・閲覧を休止しています。

ご理解、ご協力をお願いします。



貸出ランキング

集計期間：2019年4月1日～2019年9月30日

- 『ChemSketchで書く簡単化学レポート：最新化学レポート作成ソフトの使い方入門』 平山令明/著 講談社/刊 (7回)
- 『Factfulness：10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』 ハンス・ロスリング [ほか] /著 日経BP社/刊 (6回)
- 『コンビニ人間』 村田沙耶香/著 文藝春秋/刊 (6回)
- 『高電圧工学』 大木正路/著 槇書店/刊 (6回)
- 『高電圧工学』 安藤晃/著 朝倉書店/刊 (6回)

電車で、カフェで、ページをめくっているあの人は、
どんな本を読んでいるのでしょうか？

250文字ブックレビュー

先生のオススメ本から、
新たな扉、開いてみませんか。

『深夜特急 1 香港・マカオ』 沢木 耕太郎/著 新潮社/刊

915.6

Sa 94

1

配架場所：8階

インドのデリーからイギリスのロンドンまでを乗合バスで行く沢木耕太郎の旅行記である。26歳で仕事を投げ出して旅に出ることを決意する。東京からデリーまでの格安航空券を購入する際、航空券の特典として途中寄港できることを知り、当初予定していなかった香港に立ち寄ることになる。深夜特急は全6巻であり、第1巻はデリーに行く途中の香港とその対岸にあるマカオでの旅が書かれている。ほとんど無計画の自由な旅で、いろいろな人との出会いがあり、またドラマのような出来事が起こる。自分も旅がしたいと思わせる一冊である。

高瀬 浩史（電気電子通信工学科）

『邪悪なものの鎮め方』 内田 樹/著 文藝春秋/刊

914.6

U 14

配架場所
2階後援会

タイトルは怖そうですが、幽霊とかが出てくるわけではなく、「邪悪なもの」に関するエッセイ集です。この本でいう「邪悪なもの」とは、「どうしていいかわからないけれど、何かしないと大変なことになる」状況と定義されています。学生の立場でいうと、難しい必修の単位や、卒業研究がこれにあたるのではないかと思います。放っておいたら留年という状況において、適切に振る舞うにはどうしたらいいかについて色々考えさせてくれる本です

細田 彰一（機械工学科）

『宵山万華鏡』 森見 登美彦 /著 集英社/刊

913.6

Mo 54

配架場所：8階

皆さんはこの夏お祭りに出かけましたか？たくさんの夜店や提灯の明かり、日本のお祭りはどこか異世界へつながっているような不思議な雰囲気を醸し出しています。そんなお祭りの中でも京都の夏を代表するお祭り、祇園祭の宵山。この宵山を舞台に6つの摩訶不思議な物語が繰り広げられます。緩やかにつながったストーリーから、日常と非日常を行ったり来たりするような、「こんなことが起こりうるかもしれない」と思ってしまうような、お祭り特有の世界を味わえます。この本を読んで、来年は宵山見物に出かけてみてはいかがでしょうか。

大澤 正久（応用化学科）

『図解でよくわかる農業のきほん：栽培の基礎から新技術、流通、就農まで』

堀江 武 /著 誠文堂新光社 /刊

610

Z 6

配架場所：7階

スマート農業、IoT農業など、国家プロジェクトが進められていますが、日本の農業は、あと5年で破綻するのではといった危機からです。平成30年間で農業就業者数は約1/3のとなり、耕地面積は16%減少しています。未来の農業を工学系の立場から牽引するためにも、今まさに農業について知る必要があるのではないのでしょうか。本書は、農業を営む上で必要とされる知識と基礎技術が述べられています。植物の生体から、光合成、栽培技術、おいしい野菜を作るためのノウハウに至るまで、本書によって学ぶことができ、より高度な専門書を理解するための足掛かりとなると考えます。

平栗 健史（電気電子通信工学科）

『この世界が消えたあとの 科学文明のつくりかた』 ルイス・ダネートル/著 河出書房新社/刊

504

D 42

配架場所：5階

この本は文明が滅びた後で、いかに科学文明を再興するのかの思考実験をまとめたものです。文明崩壊後、どうやって必要物資を確保して最初の冬を越すのか、農業をどのように復活させて食糧を確保するのか、などサバイバル本のような流れです。しかし、インフラが残った状態のまま疾病で人類の数だけが激減したような、かなり限定された条件からスタートするシナリオで、地球規模の戦争や災害などで都市が崩壊した状態ではサバイバルに役に立ちません。この本はむしろ現代の科学文明の基礎を説明してくれ、その意味で有用な本です。

田村 仁（ロボティクス学科）

『博士の愛した数式』 小川 洋子 /著 新潮社/刊

913.6

O 24

配架場所
2階後援会

80分しか記憶が続かない「博士」と家政婦の「私」とその息子の「ルート」が築く関係を、「博士」の義姉である「未亡人」を絡めて描いた作品です。数学に触れたことのある人は「証明の美しさ」について共感できると思いますし、整数論に詳しくなくても、オイラーの等式で見事に人間関係を表したことに気づくと思います。数学、教育学、そして野球にも興味が湧くのではないのでしょうか。2004年の第1回本屋大賞受賞作で、文庫版、映画版のほかにも、漫画版もあるそうです。映画版では「ルート」の誕生日が「合成数」に変更されています。

北久保 茂（情報メディア工学科）

『三体』 劉 慈欣/著 早川書房/刊

923.7

R 98

配架場所：8階

この本は「SF：サイエンスフィクション」を読んだことがない人にも是非おすすめします。小松左京に影響を受けた中国人作家による壮大なスケールで描かれたSF物語で、作中に出てくる「三体」という謎のゲームを中心に話が進みます。三体問題やVR、現代科学や宇宙などが複雑に絡みあった世界観を楽しめます。SFですので詳しく内容は紹介しませんが、3部作の第1部的な作品であり2部、3部については英訳されたものが出版されていますので、続きが気になる方は英語の作品に挑戦してみるのも良いかもしれません。

菊田 貴恒（建築学科）

『「資本論」も読む』 宮沢 章夫 /著 幻冬舎/刊

331.6

MI 89

配架場所：4階

何を言っているかのさっぱり分からない専門書を読まねばならない、しかも逃げられない…本書はそんな窮地に陥った劇作家・宮沢章夫の読書格闘記。うっかり「資本論を読む」という連載を始めてしまった宮沢は、マルクス『資本論』の難解さに悪戦苦闘し締切に追われつつも「言葉をつかみ、文章をたどってその世界に触れたい」と必死に読み、その意外な繊細さを味わい、ついに「むさぼり食う主人は「商品」は作らない」なんてことに気づく。どんなに汗水流しても「マルクスは汗にロマンを見出さない」が、宮沢の重労働の価値は本書に詰まっている。

山中 章子（共通教育学群）